

松本歯科医院の松本祐樹先生。大学卒業後の4年間は、
歯科口腔外科に勤務していました。
初めて歯科医院に勤務したときに外科との違いに驚き、
あらためて歯科医師としての心構えができたといいます。
歯科で求められることや高倍率サージテルとライトを
使う理由について、お話を聞きました。

Yuki Matsumoto
松本 祐樹 先生
松本歯科医院(愛知県岡崎市)

“真剣勝負”するために、
大きくして明るくしています。

口腔外科から一般歯科へ。 責任の重大さを痛感しました

大学を卒業して、附属病院の歯科口腔外科に勤務しました。
医学部の附属病院だったので色々な症例を経験できましたし、
麻酔科にも所属させていただいたので、全身管理についても学ぶ
ことができました。

それから別な病院の歯科口腔外科に勤務し、その後初めて、
歯科医院に勤務することになりました。一般歯科という所に飛び
込んでみて思ったのは、“歯科は本当に奥が深い”ということです。

特に、外科との違いを感じました。語弊があるかもしれませんが、
切ったり縫ったりしても傷は治ります。でも、歯は削ってしまっ
たら元に戻りません。だから本当に責任重大です。患者さんの歯
を削るときはいまだに緊張します。サージテルを使うようになった一番の理由も、“歯科は一つひとつが真剣勝負”という、そこに
ありますね。

最初にサージテルを使ったときの感想は、“すごく見える!”です。
たとえばCR充填。肉眼でOKでも、拡大してみるとバリがあったり、

きれいに研磨されていなかったり。勤務先でお借りしていた
サージテルが手放せなくなりました。

治療が止まらないから、ストレスがない

実家の歯科医院に戻ってきて、勤務医の先生が入ったのでそれ
まで使っていた5倍を譲り、8倍とハイ・インテンシティに変えました。

ライティングに関しては、ライトを付けていなかったときはけっ
こうストレスを感じていたんですよ。自分が前かがみになったり
すると、アシスタントがうまく入れられない。そうすると、こちらも
体勢を変えなければならなかったりとか。やっぱりイライラしてい
ました。

サージテルにライトを付けると、どこの部位も見やすくなります
が、特に上顎の臼歯ですね。ミラー越しに見ようとすると、普通
だったらユニットライトを動かしてミラーに光を当てる感じになり
ます。アシスタントにやってもらうにせよ自分でやるにせよ、ライト
を合わせるあいだの分だけ、時間のロスになります。治療が止まる
この2~3秒が、大きなストレスになるんです。

サージテルのライトを使えば、ミラーを見た瞬間にもう明るい
ので、待ちは“ゼロ秒”です。治療は止まりません。これは視線と
同軸だからですよね。埋伏歯の抜歯なども、すごくよく見えます。
根を割るときも、迷わないので本当に速くなりました。

そして、特にメリットを感じているのがCAD/CAMでの形成
です。きちんとやらなければ入らないので本当に大切です。正確
で精度が高い形成のためには、明るい拡大視野が必須ですね。

僕は不器用です。だから、大きくするし明るくする。8倍とハイ・
インテンシティを使ってよく見えるようにすることで、不器用な自分
でもそれなりに上手に形成できるようになったんです。

